



# 愛知陸協広報

第5号

19年3月11日発行

愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

e-mail ark@marble.ocn.jp

ホームページ: url http://goldjaic.org/jaic/member/aichi/

## 男子第12回、女子第25回全国都道府県対抗駅伝競走大会 上位入賞ならず男女とも10位に終わる

男子：平成19年1月21日（日） 広島市平和公園前発着7区間48.0km 総合成績2時間22分20秒 第10位

女子：平成19年1月14日（日） 西京極運動公園発着9区間42.195km 総合成績2時間19分11秒 第10位

男子の部は、昨年3位に入賞し、今年も四強の1つとして前評判も高く、2区で首位に立った時は久方ぶりの優勝が期待されたがその後は選手の健闘も及ばず、昨年の大会より28秒下回る記録でゴールし入賞を逸した。

女子の部では、この2年間、大会直前に故障などのアクシデントがあり、満足な結果とならなかったが、今回は久しぶりに入賞を狙えるメンバーで臨んだ。

第1区は高校1年生ながら愛知県高校5000mの県記録を、16年ぶりに更新した二宮が予定通り先頭と36秒差で2区の湯田へ34位でタスキを渡した。湯田はこの区間で史上最多の29人抜きで5位まで順位を上げた。3区の鈴木はこの区間2年連続区間賞で2位まで上げ、久方ぶりの入賞が期待されたが、昨年の記録を2分32秒も上回る健闘も実らず10位でゴールし惜しくも入賞を逸した。

今回の結果を見ても確実に中学・高校生のレベルアップが見られる。残るのは、9区の最長区間のエース育成が今一番望まれる。

(女子監督 船越 厚次)



成績(区間記録・順位)

	第1区	第2区	第3区	第4区	第5区	第6区	第7区
男子	7.0km	3.0km	8.5km	5.0km	8.5km	3.0km	13.0km
	清水 紀仁 豊川工高	山本 修平 高師台中	内田 直将 トヨタ自動車	小柳津幸輝 豊川工高	岡部 寛之 豊川工高	水野 真治 東海中	糟谷 悟 トヨタ紡織
	20.24 (6)	8.37 (4)	24.27 (15)	14.49 (4)	25.49 (14)	9.16 (21)	38.58 (21)

白柳智也(トヨタ紡織)、三田裕介(豊川工高)、近並郷(泉中)

	第1区	第2区	第3区	第4区	第5区	第6区	第7区	第8区	第9区
女子	6.0km	4.0km	3.0km	4.0km	4.1075km	4.0875km	4.0km	3.0km	10.0km
	二宮悠希乃 豊川高	湯田 友美 ワコール	鈴木亜由子 豊橋陸上ク	奥田和佳奈 豊川工高	林 有希子 中京大中京高	中條 宏美 愛知淑徳高	足立依實子 名城大	後藤 麻由 電南中	後藤由華子 小島プレス
	20.08 (34)	12.30 (2)	9.25 (1)	13.48 (28)	13.34 (8)	13.18 (16)	12.44 (4)	10.26 (10)	33.18 (22)

武田知江美(光ヶ丘女子高)、亀井久美子(豊橋東高)、勝股梨江子(明和高)、下村環加(沓掛中)

男子第57回 全国高校駅伝  
女子第18回

平成18年12月24日(日)、高校中長距離ランナーの夢の舞台である全国高校駅伝が、各地の激戦を勝ち抜いた47校の選手が集まり都大路で展開された。

本県男子代表の豊川工高は、県大会・東海大会での大会新記録をレースの糧にして力走し、昨年の記録を1分18秒短縮したが、惜しくも3位でのゴールとなった。「留学生のいないチームでは、3年連続トップの成績だった」(「陸上競技マガジン」2月号131頁)の壁を乗り越えて「優勝」の2文字に挑戦し、更なる飛躍を期待したい。

女子代表の中京大中京高は、昨年の順位を2つ上げ、記録も26秒短縮したが、入賞には一步届かなかった。

以下、両校の監督にレースをふり返っていただいた。

男子：豊川工高 総合成績2時間4分25秒第3位  
「全国高校駅伝、日本一の応援を背に」

愛知県予選、東海大会と大会新記録を出して、上り調子で臨んだ全国高校駅伝。今年こそは「優勝」をとチームの者だけでなく学校関係者、地域の方々からの期待も非常に大きく、気合の入った全国大会となった。それでも生徒達はいたって平常心で生活をしていてくれたと思う。

試合当日、学校関係者や地域の方々、保護者など総勢600名近くの方が京都まで応援に駆けつけてくださった。毎年テントに掲げる豊川養護学校の生徒達の寄せ書きも、例年になく気合が入っていたように思う。豊川の商工会議所・ロータリークラブの方々も多数応援に駆けつけ、独自の応援をしてくださった。生徒達もその応援に力むことなく、思い切った走りを見せてくれた。レース展開は、思い通りにはならなかったが、地力のある所を見せてくれたと思う。

今年度で9回目の出場となったわけだが、全国大会では、目に見えない相手がいることを痛感させられた。心を強くして、どんな状態でも平常心で臨めるよう努力、精進していきたいと思う。

最後にこの大会出場に際し、本当に多くの方々から応援をいただき、生徒共々心から感謝をしている。駅伝の結果は全国3位であったが、応援は日本一であった。この応援を力にして来年度は、今年度を上回る力をつけていきたいと思う。(渡辺 正昭)



女子：中京大中京高 総合成績1時間10分33秒第17位

レースの経緯

レースはハイペースの展開で進み、1区林有希子は我慢のレースとなったが、中盤以降下がることなく18位と2区の1区花岡紗耶にタスキを渡した。花岡は、区間11位と頑張り1人を抜き17位と良い流れをつくり、3区光田真穂、4区内藤由夏、5区伊藤麻未とタスキを繋ぎ、我慢のレースで総合17位でゴールした。

チームの目標としていた8位以内入賞は達成できませんでした。駅伝競走で大切なチームワーク・絆の強さが実った大会でした。結果は17位でしたが、陸上競技者として、また高校生として大変貴重な経験ができ、これからの人生に大きな自信を得ることができた意義ある大会でした。今回の大会の経験を生かし、より高い目標に向けて努力していきたいと思えます。

(川口孝志郎)



成績(区間記録・順位)

豊川工高	第1区	第2区	第3区	第4区	第5区	第6区	第7区
	10.0km	3.0km	8.1075km	8.0875km	3.0km	5.0km	5.0km
	清水 紀仁③	市川 貴洋③	三田 裕介②	岡部 寛之③	小島 裕貴②	小柳津幸輝③	早川 智浩①
	30.13 (12)	8.19 (2)	25.07 (18)	23.19 (3)	8.53 (2)	14.29 (1)	14.29 (2)

中京大中京高	第1区	第2区	第3区	第4区	第5区
	6.0km	4.0975km	3.0km	3.0km	5.0km
	林 有希子③	花岡 紗耶①	光田 真穂③	内藤 由夏③	伊藤 麻未③
	20.10 (18)	13.32 (11)	10.06 (17)	9.51 (18)	16.54 (28)

第37回ジュニアオリンピック

平成18年10月27日(金)～29日(日) 日産スタジアム

成績(本県分：入賞者のみ)

男子

A 800m	③山本 龍(美川)	1.57.90
3000m	②山本 修平(高師台)	8.32.03
B 走幅跳	②酒谷 昇吾(萩山)	6.35
C 走幅跳	⑤青木 貴司(富貴)	5.76
A B C 共通	⑧山崎 翔太(はとり)	三輪 将之(天神山)
4×100R	大野 将士(八王子)	笹田 康弘(名古屋東海)
	酒谷 昇吾(萩山)	青木 貴司(富貴)
	43.98	

女子

A 100m	⑥竹下 晴子(光ヶ丘)	12.67
3000m	①鈴木亜由子(豊橋陸上ク)	9.18.41
走高跳	⑧中嶋 文望(岩津)	1.58
B 走高跳	②中村佳代子(鶴城)	1.58
	⑤佐藤 菜南(滝ノ水)	1.55
B 走幅跳	①深谷 実咲(東浦)	5.40
C 100m	②家田 知佳(東浦西部)	12.63
B C 共通	⑤加藤 博子(豊川南部)	33.38
円盤投		
A B C 共通	⑤竹下 晴子(光ヶ丘)	上岸みさき(円上)
4×100R	船坂 実来(北陵)	家田 知佳(東浦西部)
	深谷 実咲(東浦)	矢野 里奈(千種)
	50.00	

(編集委員会)

男子第55回 東海高等学校駅伝競走大会  
女子第17回

期日 平成18年11月26日(日) 男子10時30分出発

女子10時00分出発

コース 知多運動公園陸上競技場～市道北浜金沢線

男子(42.195km) 女子(21.0975km)

成績(本県分:4位以下は順位と記録のみ)

男子

- ①豊川工 (清水、鶴田、岡部、小柳津、小嵩、早川) 2.05.59 大会新
- ⑨愛知 2.13.19 ⑩愛工大名電 2.13.20
- ⑭中京大中京 2.14.09 ⑱時習館 2.15.14
- ⑲岡崎城西 2.15.38

女子

- ③豊川 (二宮、加藤、大久保、小柳津、レハマ・フランシス・ムナ) 1.11.34
- ⑤中京大中京 1.12.05 ⑥豊川工 1.12.25
- ⑦光ヶ丘女子 1.12.56 ⑪愛知淑徳 1.14.17
- ⑫惟信 1.14.57

(編集委員会)

平成18年度

第14回全国中学校駅伝大会山口大会

平成18年12月16日(土)

山口県セミナーパーク・クロスカントリーコースに会場を移し、男子は1人3kmの6人で18km、女子は1・5走3km、2・3・4走2kmの5人で12kmを争って行われた。

今回の駅伝大会は直前から流行りだしたノロウイルスによる風邪の影響を受け、男女3チームが最初もしくは途中棄権でゴールをすることができなかった。愛知県女子チームも泊まった旅館での大量発生を受け、エントリーした8人中6人が影響を受けた。

成績は、下記のとおりである。

男子の部では2年生3人、3年生3人のチームで総合31位と力を発揮することができなかったが、次回に繋がる感触を得たようである。

女子の部では2年連続で豊明市立沓掛中学校が出場。冒頭でも述べたようにノロウイルスによる風邪の影響を受け、結果的に2年生主体のチームで総合34位と昨年に比べると低調であったが、2年生主体ということもあって来年には期待がもてそうである。

今回の全国駅伝大会では、大会までのコンディションづくりや主催者側の対応の難しさがクローズアップされた大会であった。

男子の部 豊田市立前林中学校 記録:59分42秒 第31位

区間	氏名	記録	区間順位
1区	近藤 尚紀(3)	9.38	27
2区	神谷 信次(2)	9.51	37
3区	大石 直樹(3)	9.55	27
4区	木村 聖也(2)	10.16	38
5区	清水 大輔(2)	10.11	23
6区	松原 英嗣(3)	9.51	20

女子の部 豊明市立沓掛中学校 記録:44分07秒 第34位

区間	氏名	記録	区間順位
1区	鈴木 佑果(3)	10.59	33
2区	梶野 愛(2)	7.19	40
3区	加藤恵理子(2)	7.49	41
4区	鷺見咲也加(2)	7.23	25
5区	下村 環加(2)	10.37	10

(秋田 明憲)

平成18年度

第55回愛知県中学校駅伝大会

平成18年11月18日(土)に豊田市運動公園陸上競技場および園内道路で開催された。男子の部は1人3kmの6区間で18km、女子の部は1・5走3km、2・3・4走2kmの5区間で12kmを全国大会をめざして争われた。

男子の部では、昨年までの連勝記録を伸ばそうとする石巻中、打倒石巻を掲げる西三河勢とで激しい争いが繰りひろげられた。後半は豊田・前林中、岡崎・矢作中のマッチレースになり、最終走者も競技場の中まで勝負を持ち込むという見ている観客側には「ハラハラ・ドキドキ」の激しいレースが繰りひろげられた。結果は豊田・前林中が57分16秒で逃げ切り、6年ぶりの全国大会の切符を手にした。

一方、女子の部では、昨年のスタートから独走という様子とは違って、抜きつ抜かれつのレースで、前半は豊田・前林中がリードし、他校が追いかけた。中半は豊田・前林中と豊明・沓掛中のマッチレースとなり、最後は自力に勝る豊明・沓掛中が差を広げ、41分10秒で逃げ切った。豊明・沓掛中は2連覇を果たし、2年連続の全国大会出場を決めた。

結果は次のようである(9位以下は学校名のみ)

男子

順位	学校名	記録
1	豊田市立前林中	57.16
2	岡崎市立矢作中	57.24
3	岡崎市立六ツ美中	57.37
4	岡崎市立東海中	57.54
5	岡崎市立南中	58.06
6	豊明市立沓掛中	58.50
7	岡崎市立葵中	59.10
8	豊橋市立石巻中	59.60

順位	学校名	順位	学校名
9	岡崎市立美川中	31	豊橋市立東陽中
10	豊川市立東部中	32	田原市立伊良湖岬中
11	豊橋市立高師台中	33	名古屋市立守山北中
12	一宮市立今伊勢中	34	常滑市立常滑中
13	名古屋市立東港中	35	一宮市立北部中
14	新城市立東郷中	36	小牧市立小牧中
15	瀬戸市立幡山中	37	江南市立布袋中
16	吉良町立吉良中	38	名古屋市立藤森中
17	田原市立田原中	39	名古屋市立守山西中
18	武豊町立富貴中	40	知多市立八幡中
19	蒲郡市立形原中	41	名古屋市立守山中
20	田原市立泉中	42	弥富市立弥富中
21	瀬戸市立南山中	43	犬山市立東部中
22	阿久比町立阿久比中	44	大口町立大口中
23	名古屋市立萩山中	45	扶桑町立扶桑中
24	豊田市立逢妻中	46	名古屋市立千種台中
25	岡崎市立竜南中	47	扶桑町立扶桑北中
26	豊橋市立中部中	48	小牧市立桃陵中
27	犬山市立南部中	49	名古屋市立北陵中
28	名古屋市立振甫中	50	常滑市立南陵中
29	江南市立古知野中		
30	名古屋市立滝ノ水中		

女子

順位	学校名	記録
1	豊明市立沓掛中	41.10
2	豊田市立前林中	42.10
3	岡崎市立六ツ美中	42.12
4	岡崎市立南中	42.19
5	豊橋市立石巻中	42.40
6	岡崎市立竜海中	42.47
7	豊川市立東部中	42.53
8	岡崎市立矢作北中	42.55

順位	学校名	順位	学校名
9	岡崎市立甲山中	22	豊橋市立南陵中
10	岡崎市立竜南中	23	瀬戸市立水無瀬中
11	岡崎市立城北中	24	瀬戸市立幡山中
12	名古屋市立扇台中	25	豊橋市立東部中
13	田原市立田原中	26	犬山市立東部中
14	田原市立福江中	27	名古屋市立御幸山中
15	岡崎市立矢作中	28	名古屋市立はとり中
16	吉良町立吉良中	29	小坂井町立小坂井中
17	豊橋市立高豊中	30	名古屋市立滝ノ水中
18	小牧市立小牧中	31	名古屋市立高針台中
19	武豊町立富貴中	32	名古屋市立萩山中
20	江南市立宮田中		
21	蒲郡市立蒲郡中		

順位	学校名	37	名古屋市立門上中	42	名古屋市立北山中	47	知多市立知多中
33	蟹江町立蟹江中	38	武豊町立武豊中	43	犬山市立犬山中	48	扶桑町立扶桑中
34	名古屋市立長良中	39	一宮市立南部中	44	名古屋市立東港中	49	一宮市立北方中
35	江南市立古知野中	40	阿久比町立阿久比中	45	美和町立美和中	50	常滑市立常滑中
36	瀬戸市立南山中	41	蒲郡市立形原中	46	江南市立布袋中		(秋田 明憲)

2007年名岐駅伝競走大会 平成19年2月4日 一般6区間52.6キロ、高校40.2キロ

**一般：豊田紡織3連覇ならず第2位 高校：豊川工高大差で2連覇4回目の優勝を飾る**

「栄光のGOALにタスキをつなげ！」のスローガンの下、各県の厳しい予選を勝ち抜いた83チーム（一般37、高校46）とオープン参加の長野選抜が加わって熱戦が繰り広げられ、沿道の熱心な駅伝ファンを熱狂させた。今年より岐阜市内のコースが一部変更され（一般2区、高校1、2区）、昨年より0.4キロ短縮された。

一般の部では、今年から1区に外国人選手の起用が禁止されたため、外国人選手の強豪が4区（9.8キロ）に集中し、3人の外国人選手が区間記録を更新するなどハイレベルの接戦が展開された。レースは4区で首位にたったスズキがその順位をキープしてゴールし、3連覇が期待された豊田紡織は1位と32秒差の2位に終わった。

高校の部では、1～2区で3位と出遅れた豊川工高が、3区清水の区間1位の快走で2位の中京高に1分近い差をつけて4区岡部にタスキをつなぎ、岡部も区間初の力走でその差をさらに広げた。5区の市川と6区三田も区間1位の好走を見せ、2位に2分43秒の大差をつけてテープを切り、2連覇を達成した。

成績（4位以下は本県勢のみ、また11位以下は順位とチーム名のみ記載）

一般の部

- ①スズキ（静岡）  
（笹木 中川（智） 秋山 M.マサシ 河村 中川（拓））2.31.04
- ②トヨタ紡織  
（前田 小林 田口 J.カリウキ 牧野 白柳）2.31.36
- ③トヨタ自動車  
（浜野 岩水 内田 J.カーニー 武者 尾田）2.32.46
- ⑤愛三工業  
（鈴木 井幡 石川 H.チェノンゲ 風見 仲野）2.35.21
- ⑦中央発条  
（重見 榊原 坂井 山口 両角 アガスティン）2.36.38
- ⑧トーエネック（阿部 中田 角田 佐藤 三嶋 浅羽）2.37.04
- ⑨愛知製鋼（杉本 吉川 大関 上條 山本 三浦）2.37.56
- ⑩名古屋大 ⑫庄内RT ⑬館俱樂部 ⑭守山自衛隊
- ⑮中京大 ⑰TPAC ⑱愛知工大 ⑲トヨタSC
- ⑳TWRC ㉑名城大 ㉒名城ARC ㉓愛知学院大
- ㉔名古屋商大 ㉕大同工大 ㉖TTR ㉗愛知大
- ㉘トヨタ田原

高校の部

- ①豊川工高（鷺田 小柳津 清水 岡部 市川 三田）1.59.07
- ②中京高（岐阜）（押川 吉田 中田 拓植 上川 山本）2.01.50
- ③佐久長聖高（長野）

- （堂本 村沢 広沢 笠原 藤井 片桐）2.02.09
- ⑦愛知高（本村 漆崎 和田 中島 井上 渡辺）2.04.29
- ⑩愛工大名電高（粟津 立川 川上 酒井 殿島 岩山）2.05.18
- ⑪岡崎城西高 ⑬豊川高 ⑰時習館高 ⑲中京大中京高
- ⑳弥富高 ㉑中部大第一高 ㉒東邦高 ㉓愛産大三河高
- ㉔科技高豊田 ㉕惟信高 ㉖岡崎高 ㉗一宮興道高
- ㉘豊橋工高 ㉙豊橋東高 ㉚岡崎北高 ㉛一宮高
- ㉜国府高 ㉝刈谷高 ㉞成章高 ㉟旭野高
- ㊱刈谷北高 ㊲名古屋高

区間賞（本県分のみ）

一般の部

- 第1区（12.4km）前田 貴史 トヨタ紡織 36.18
- 第2区（7.3km）岩水 嘉孝 トヨタ自動車 21.31
- 第3区（6.0km）内田 直将 トヨタ自動車 17.01
- 第5区（6.2km）牧野健太郎 トヨタ紡織 17.42
- 第6区（10.9km）アガスティン 中央発条 30.53

高校の部

- 第3区（9.8km）清水 紀仁 豊川工高 28.40
- 第4区（6.2km）岡部 寛之 豊川工高 17.54 区間新記録
- 第5区（4.3km）市川 貴洋 豊川工高 12.34
- 第6区（6.6km）三田 裕介 豊川工高 19.42

（編集委員会）

**愛知万博メモリアル 第1回愛知県市町村対抗駅伝競走大会（「愛知駅伝」）**

平成18年12月2日（土） 13:00スタート「愛・地球博記念公園」内、周回コース9区間28.75km

初代チャンピオン 市の部：豊田市 町村の部：東浦町

快晴に恵まれ開門とともに県内各市町村の選手、役員、応援団らの関係者を乗せたバスが入園し、9時半には「愛・地球博」時のセンターゾーンの芝生広場が63市町村の選手らの色鮮やかなユニフォーム姿やテント・幟等で彩られ、第1回大会にふさわしい盛り上がりで雰囲気が作り出された。

午後1時、神田知事の号砲で第1走者のジュニア男子がスタートし、郷土の榮譽と誇りをかけたタスキが小学生から40歳以上の壮年までの男女にリレーされ、9区間28.75kmの周回コースで熱戦が展開された。

スタート・ゴール地点には大型テレビが設置され、刻一刻と入れ替わる順位と選手の力走が映し出され、大会を一層盛り立てた。

なお、神田知事より競技運営にあたった本協会に感謝状（写真中）が贈られた。

成績は次のようであるが、豊田市（写真左）と東浦町（写真右）が優勝し、初代チャンピオンとなった。

市の部 1位 豊田 1.28.50

以下、順位と市名のみ

- （塩田、神谷（益）、田中、近藤、神谷（友）、中條、下川、後藤、中馬）
- ①尾張旭 ⑫日進 ⑬江南 ⑭稲沢 ⑮西尾 ⑯蒲郡
- ⑰一宮 ⑱瀬戸 ⑲小牧 ⑳犬山 ㉑知立 ㉒弥富
- ㉓新城 ㉔大府 ㉕東海 ㉖半田 ㉗愛西 ㉘北名古屋
- ㉙岩倉 ㉚春日井 ㉛知多 ㉜常滑 ㉝津島 ㉞高浜
- ㉟清洲

町村の部 1位 東浦町 1.35.31.

(馬田、櫻井、今西、鈴木、長坂、松村、岡村、平松、風見)

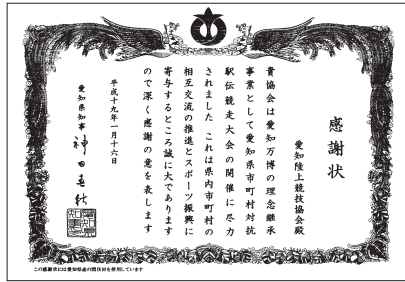
- ②小坂井町 1.36.32 ③武豊町 1.36.57 ④三好町 1.38.41
⑤扶桑町 1.41.50 ⑥幸田町 1.44.38 ⑦一色町 1.44.42
⑧長久手町 1.44.54 ⑨阿久比町 1.44.59 ⑩大治町 1.45.27

以下、順位と町村名のみ

- ⑪東郷町 ⑫幡豆町 ⑬御津町 ⑭設楽町 ⑮美浜町
⑯大口町 ⑰蟹江町 ⑱吉良町 ⑲飛鳥村 ⑳音羽町
㉑東栄町 ㉒七宝町 ㉓甚目寺町 ㉔豊山町 ㉕美和町
㉖南知多町 ㉗豊根村 ㉘春日町

区間記録

Table with columns for intervals (1-9), distance (km), and qualifications. It lists records for '市' (City) and '町村' (Town/Village) across various age groups and genders.



(編集委員会)

2006年 名古屋ハーフマラソン
平成18年11月23日(祝・水)
瑞穂公園陸上競技場内周ハーフマラソンコース

成績(4位以下は本県分で順位・氏名のみ 31位以下省略)

男子の部

- 1 サイモン・マイナ(愛知・愛知製鋼) 1.01.51
2 ヒラリー・チェノング(愛知・愛三工業) 1.02.04
3 アガスティン・ガディム・ディラング(愛知・中央発條) 1.02.05
5 ジュリアス・マイナ 7 前田 貴史 8 糟谷 悟
9 上條 記男 10 山内 貴司 11 川 直人
14 大関 喜幸 15 渡邊 聰 17 江本 悟司
18 山下 喜久 19 土田 豊和 20 南 智宏
23 花田 俊輔 25 青野 宰明 29 榊原 聡

女子の部

- 1 大南 敬美(愛知・トヨタ車体) 1.11.03
2 田辺かおり(三重・デンソー) 1.11.31
3 上田 美恵(宮崎・旭化成) 1.13.23
6 前田さやか 7 齋藤 恭子 8 青戸 敦子
9 笠原 千里 12 林 麻美 13 荻野さとみ
14 小澤 清子 15 長谷川真由美 17 吉田 文子
19 岸上 香織 20 犬塚ふた葉 21 渡辺たまき
22 落合由美子 23 井出 志保 24 米谷 悦子
25 近藤 幸恵 26 宮口智映子 27 家入真由美
28 杉山 寿江 30 大杉絵梨佳

(編集委員会)

第22回スーパーレディス駅伝競走大会
平成18年11月12日(日)12時10分スタート
福井県営陸上競技場～上伏町～福井県営陸上競技場 6区間30km

愛知県選抜は、高橋直之監督、奥川渉、荒川理恵コーチ、選手9名が参加した。(出場選手名のみ記載)

成績 20位 1.44.32

勝股 宏美(愛知淑徳) 磯竹 梓(光が丘女子)

- 武田知江美(光が丘女子) 中條 宏美(愛知淑徳)
山口 洋美(愛知淑徳) 矮竹 梓(光が丘女子)

第51回全日本実業団対抗駅伝大会
平成19年1月1日 群馬県庁前発着

成績(愛知県分)

- 5位 トヨタ紡織(前田、白柳、J・カリウキ、牧野、小林、畔柳、糟谷) 4.49.43
20位 トヨタ自動車 4.53.13
29位 愛三工業 4.56.34
30位 愛知製鋼 4.57.20

(編集委員会)



はじめに(連載にあたって)

中部地区で最も古い伝統を持つ「名古屋岐阜間駅伝」(以下、特別な場合を除き「名岐駅伝」という)は、昭和5年(1930年)10月19日新愛知新聞社(現中日新聞社)の主催で始められた(新愛知新聞社前～一宮～岐阜県庁往復、4区間、71.5km)。この大会がどのような経緯で開催されるようになったかを明らかにできるだけの資料は、現在手元にない。当時全国各地で新聞社主催の各種のスポーツ行事が開催されていたことや昭和2年(1927)には県中等学校体育連盟主催で「男子陸上競技会」(10月、名高商)、「女子陸上競技会」(11月、相山女)、10月17日には豊川で「第1回東海都市対抗陸上競技大会」(大阪朝日新聞名古屋支社主催)が開催されるなど、当地区で陸上競技への機運が高まってきていたと思われる。また、日本で始めて「駅伝」という言葉を使った「東海道53次駅伝競走」(京都～東京間、508km、23区)に、愛知一中(現在の旭丘高校)の校長でマラソン王といわれた日比野寛が(注)、愛知一中の生徒や職員らでチームを組織して参加していること、さらに大会のはじめの頃に、日比野が審判長として競技上の諸注意や激励を行い、スターターもしていたこと等を考えると、日比野を中心とする愛知の陸上競技愛好者が何らかの形で大きく関与したのではないかとと思われる。大会は、2回の中断

(昭和19年～22年、41年～52年)があったものの80年近くにならないうち、東海地区を中心とした陸上競技愛好者にとって冬季の大きな目標の一つであり、大会に参加することが青春の夢の一つでもあったに違いない。また、沿道の人たちにとっても冬の風物詩として愛され、今日でも多くの駅伝ファンが沿道でレースを楽しみながら温かい声援を送り続けている。

この連載では、かつて選手や関係者として名岐駅伝に関わってきた先人の生の証言(回顧)を交えながら今日までの歴史(足跡)をその当時の陸上競技界や社会状況等とも関連させながら迎えてみたい。

注：日比野は、日本陸上競技連盟の創立(大正14年、1925)に大きな役割を果たし、大正14～昭和7年まで日本陸上競技連盟派遣役員として常務理事・理事を務めた。

お願い：戦前及び昭和20年代の資料が新聞記事以外ほとんどありません。どんな資料でも構いませんのでご提供ください。また、当時競技者や審判等で関係された方をご存知の方は是非ご紹介ください(編集委員会宛)。

参考資料：①愛知陸上競技協会編「愛知陸協六十周年記念誌」1994  
②中日新聞縮刷版

付記：本企画の連載に当たり、主催者の中日新聞社及び同スポーツ事業部の小山健氏に資料提供等の多大のご配慮を頂きました。記して感謝の意を表します。

(西垣 完彦)

## 支部報告

### 名古屋支部

For the play, for the team

名古屋支部長距離陣に期待

冬季の長距離大会スケジュールは、市民マラソンから始まり、名古屋シティーマラソン、中学駅伝、高校駅伝、大学駅伝、実業団駅伝、レディース駅伝、都道府県女子駅伝及び都道府県男子駅伝、名岐駅伝、名古屋国際女子マラソンと過密である。選手は故障しない、4月からのトラックシーズンに向け、実力を蓄えてほしい。

陸上競技は個人プレイ・個人主義に走りがちであるが、駅伝競技となると For the team の意義が最も発揮される種目である。代表選手の名誉にかけ、より高い記録を目指し力走する姿は応援者の心を打つ。監督の指示を受け For the team・For the best の精神で、紆余曲折の困難を乗り越え指定された区間を走り抜かないと好成績は望めない。18年度に創設された万博記念市町村対抗駅伝は、まさに愛知県の駅伝を一層発展させる起爆剤である。愛知陸協・稲垣氏や東海TV吉田氏の尽力には敬服する。残念ながら今回名古屋市駅伝チームのお世話をし、名古屋市内在住の小中高生の長距離の実力の非力さが身にしみた。陸上指導者として大いに力を貸したい。10年かけて市内の指導者の力を借り、市

## ＜新企画＞ ホープさん①

### 世界に羽ばたけ鈴木亜由子さん



2年生で、全国中学校体育大会の800mと1500mの2種目制覇というドラマティックなデビューをした鈴木さん。その後も快挙は続き、今年度の全国中学校体育大会でも800mこそゴール寸前で転倒し優勝を逸したものの、その3時間後の1500m予選を通過し、翌日の優勝では大会記録で2連覇を、また、「のじぎく国体」での優勝(少女B:800m)や全国都道府県対抗駅伝での2年連続区間第1位、さらにジュニアオリンピック、(A3000m)2年連続で大会記録およびMVP等、その活躍ぶりは枚挙にいとまがない。力強く大地を蹴って疾走するダイナミックで無駄のない美しいフォームは「動く彫刻」であり、見るものに感動を与える。

父伸幸さんによれば、亜由子さんは1才の頃から小児喘息を発症し、夜間に救急医療に走ったことも度々あったという。少しでも元気な子に成長して欲しいという両親の願いで3歳頃から喘息に効果があるということからスイミングスクール通いが始まったが、運動好きの亜由子さんには珍しく水泳にはあまり積極的ではなかったという。そこで小学校2年の頃から母の勧めで現在の豊橋陸上クラブに入ることになるが、その動機もたまたま豊橋陸上競技場が自宅と目と鼻の先にあり、送迎の負担が軽減されることも一因であったという。中学では部活動に陸上部がないこともあって、バスケット部に所属して県大会に進出して活躍しているが、それだけにも競技場が遠くにあったとしたら現在の存在はなかったかも知れないと考えると、陸上競技や佐藤悦子コーチらとの出会いに運命的なものを感じる。

最初は半べそをかきながら母に連れられて出掛けていたという亜由子さんが、「低学年時は遊びの中で走る楽しさを教え、高学年になってからは、陸上競技に親しみ楽しむことで、陸上好きの子供たちに!!」というクラブの方針と佐藤悦子コーチの「中距離も短距離の延長」というポリシーが見事に結実しつつある。

4月から高校生活が始まり環境も変わるであろうが、「これからも陸上競技を続けていく」意欲と「陸上競技の魅力は記録を更新したときの達成感にあり、絶えず自己ベストを目指して競技に臨む」という亜由子さんの言葉は頼もしい限りである。

山(目標)が高ければ高い程、谷(スランプ)は深いという。競技の結果に一喜一憂するのではなく、いつもスタンドで声援している家族の愛やコーチと共に長期的な展望の下に遭遇するかも知れない「壁」を一つ一つ克服しながら高い目標に向かって世界に羽ばたいて欲しい。

最後に、父伸幸さんの言葉を紹介する。

「亜由子が選手としていられるのは、佐藤先生をはじめ指導して下さっている豊橋陸上クラブの各コーチ、また部活がないにもかかわらずバックアップして下さる豊城中学校、地域の方々のご支援によるものと感謝しています。まだまだ未熟な娘亜由子ですがこれからも温かく見守っていただければ幸いです」(原文のまま)。

本稿を作成するに当たり、父伸幸さんの寄稿文と東海テレビ「スーパーサタデー」(18/8/26)およびテレビ愛知「青春ナビ<トラックに新星現る>」(18/10/21)を参考にした。

(西垣 完彦)

内の長距離力の飛躍に努力したい。サッカーや少年野球のようなメジャースポーツに駅伝を引き上げたい。

2007年度はいよいよ世界陸上開催の年、その翌年は北京五輪開催の年。愛知からも多数の選手の出場と入賞を期待するものである。世界陸上出場を目指す愛知の有力選手は、春先に故障せずトップギアで予選を勝ち抜き、少数精鋭のメンバーとして確実に本大会で入賞してほしい。かつて愛知の国体は決勝8人で優勝7点、7・8位0点の厳しい現実を突破して陸上王国を築いた。若い現役選手の2007年度の大活躍を期待する。

なお名古屋支部は2007年度から記録集計をコンピューター処理する予定である。登録団体は陸協の要覧と支部要覧を必ず1部ずつ計2部購入して下さい。

(坂井田 醇三)

## 西三河支部

伝統に支えられて

西三河支部で特筆すべきことは、昨年11月秋の叙勲で副支部長の山内 満先生が、教育功労で瑞宝双光章を受章されたことです。現職の頃、校長会の要職にありながら、支部理事長・県陸協の常務理事・審判部の仕事等、永年の御苦労に対して感謝と同時に心からお祝い申し上げます。

次に昨年12月2日の市町村対抗駅伝は、急な企画で、行政側はもちろん、私達陸協関係者も、選手選出までの涙ぐましい努力をみて感動しました。しかし県内を見ると地域に温度差がありました。8月の愛知陸協理事会でも発言内容に次元の違いを感じました。結局これが成績(別掲4~5頁)に影響しました。大会はまず合格点で終わりましたが、将来展望としては陸協と行政との連携がより重要です。財政の厳しい中で、施設等行政の取組みの差が表れました。この大会の果たす役割が大きいだけに、今後を期待します。

陸上教室は本年度も3回計画しました。県主催の教室と違って西三河は県の将来計画を先取りして、支部独自で実施しています。今年度は中・高校生約700名参加、本支部は参加者が多い為、小学生対象の教室が出来ない状態です。別途出来ないかと考えています。特筆すべきことは、この会の指導に大先輩が多数来て頂けることです。国際大会で活躍した人とかつて日本記録樹立者・全国大会の優勝者等、本支部出身のOB・OGを中心に同窓会さながらです。企画の先生方の努力はもちろんですが、あらためて中学・高校時代の恩師との絆を感じます。市町村対抗駅伝の選手の掘り起こしも、中学・高校の先生の一声が一番効果のあったことを実感しています。コーチの皆さんありがとうございます。

私事ですが、本年度末で60年の陸上生活に終止符です。長いマラソン人生のゴールです。ありがとうございました。

伝統ある西三河地区の益々の発展を祈念します。

(鶴田 政之)

## 東三河支部

トラックシーズンを終えて東三河支部では、12月中旬の渥美半島駅伝大会を皮切りに市民マラソン・駅伝シーズンを迎えました。渥美半島駅伝大会では県内外の強豪チームの参加を得て盛り上がる中、地元の豊川高校・時習館高校等の活躍もあって、大会を成功裏に終了することが出来ました。

2006年末の全国高校駅伝(男子)では豊川工業高校がケニア人留学生を擁する世羅高校や仙台育英高校を相手に、県高校タイ記録で3年連続のメダルを獲得する活躍を見せたことは、東三河に限らず全国の駅伝ファンや高校生に「やればできる」勇気を与えている。さらに、女子では豊川高校が1年生チームでありながら県高校駅伝・東海高校駅伝で大活躍しており、今後とも両校から目を離せない状態である。

2007年度も優秀な中・長距離選手が高校に進学する予定であり短距離勢も含めて今後の活躍が楽しみな東三河支部である。

穏やかな2007年1月を迎え、全三河長距離継走大会が蒲郡で

行われた。大会では西三河中学勢の活躍が目立った。「駅伝の東三河」が定着しつつある今日、東三河の中学校勢の奮起を促したい心境である。大会終了後、平成19・20年度の役員選出を始め各種大会の要項や日程等について討議し、来るべき2007年度シーズンへ向けての準備をした。

1月中・下旬の全国都道府県対抗女子駅伝・全国都道府県対抗男子駅伝において、東三河支部出身の男女選手がそれぞれの持ち味を出して活躍してくれた。このことは本人の努力はもちろんですが、関わって頂いた先生・コーチの方々のご支援の賜と役員の一員として深く感謝申し上げます。今は、3月に行われる日比野賞中日豊橋マラソンの運営に向けて準備をしている今日この頃です。

(夏目 輝久)

## 専門委員会報告

### 総務委員会

18年度の事業も終わろうとしています。今年度は東海選手権、東海高校総体、東海高校駅伝、西日本医科学生の本番県として競技運営に携わり、新規事業として愛知県市町村対抗駅伝を開催しました。それぞれの大会が無事終了して、関係各位に感謝申し上げます。現在は、犬山ハーフマラソン(2/25)、国際室内棒高跳大会(3/3)、名古屋国際女子マラソン(3/11)、中日豊橋マラソン(3/18)、の準備に追われています。

また、愛知陸協が東海陸協の事務局であるため、横浜国際女子駅伝(2/25)の東海・北陸選抜チームの事務局も担当しています。1月~2月にかけては登録関係のまとめの時期であり、「登録要項」の見直しや、18年度の「年鑑」の作成と相まって、次年度の登録、ナンバーカードの準備等を進めています。紙面を通して、1年間登録の受付を担当して下さった先生方にお礼申し上げます。

なお、当協会の國分一郎副会長兼理事長が多年、陸上競技の普及と技術の向上に努めるとともに、組織の強化及び指導者の育成に尽力するなど、体育の振興に貢献された功労者として、平成18年度愛知県教育表彰を昨年11月7日に受賞されました。

### 平成18年度(17年度)会員(登録・登記)数

種別	人数	
	18年度(19.1.30現在)	17年度(18.1.30現在)
一般	2,469	2,517
高校	5,794	5,407
中学	4,440	4,024
合計	12,703	11,938

(稲垣 裕)

### 記録委員会

記録は暦年(1月~12月)で整理をします。したがって、記録委員の各部門の担当者は競技会終了ごとに整理をしています。年末から年始にかけて気をつかう時期を迎えています。トラックシーズンが11月上旬に終わりますと日本陸連の記録集(日本・高校・中学の各部門100傑)・高校年鑑の資料の提供を優先し再整理、再確認をします。次に愛知陸協の10傑表の作成に入ります。道路競技は12月にも大会がありますので、その記録の確認もしていると最終的な完成はやはり1月末までかかります。念入りにチェックしていますが、それでも記録集ができあがってもミス(収集洩れ)はなかったかと心配です。この広報が発行される頃には2006年の愛知陸協記録集が刷り上がっています。

2007年も元旦ロード・競歩大会(庄内緑地)から始まりました。県外の大会の記録は競技者本人からの記録証明(大会出場報告)による申告が大原則です。

(岡田 武彦)

## 審判委員会

2月18日に開催された全国審判委員長会議に、青木・榊原が出席しました。2007年度のシーズンに向けて、審判伝達講習会を下記のように実施します。是非どこかの会場に参加して、ルール of 修改正を理解して頂いて、今後の競技会運営にご協力ください。

### 審判伝達講習会の日時・会場

支部	日時	会場	講師予定
尾張	3月17日(土) 10時00分	一宮市民会館	青木 実
名古屋	3月23日(金) 18時00分	スポーツ振興会館	青木 実
	24日(土) 9時30分	スポーツ振興会館	榊原 茂
西三河	3月25日(日) 13時30分	安城市体育館	青木 実
東三河	3月18日(日) 14時30分	豊城地区市民館	青木 実
全 県	4月14日(土) 15時30分	瑞穂陸上競技場	榊原 茂

(青木 実)

## 施設用器具委員会

日本陸上競技連盟施設用器具委員会より「諸規程改定に伴う当面の運用」について下記の点について通知がありました。

詳細は割愛し、その一部についてのみ紹介するので関係者は平成19年度「ルールブック」を参照して、競技会運営等に支障が生じないように努めてください。

### 1：公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規定。

第3条 「第5種の扱い」「第3種の300mおよび土質競技場の扱い」「インフィールドの人工芝の扱い」「競技会開催の種別」

平成19年4月1日施行

### 第15条 公認料の改定

「付帯投てき場」(26,250円)「室内棒高跳」(26,250円、公認期間を5年間とする)

平成20年4月1日施行

### 2：競技用器具検定規程

スターティングブロックを1台525円に修正。

平成19年度より実施。

### 3：長距離競走路ならびに競歩路公認に関する細則

第1条 第8部道路競走、第240条の条件を満たし、かつ第261条の記録が公認される種目に示されている次の距離を公認する。

5km(競歩路のみ)、10km、10マイル、20km、ハーフマラソン、25km、30km、マラソン、50km(競歩路のみ)、100km、ロードリレー

平成19年4月1日施行

### 4：第1種・第2種公認陸上競技場の基本仕様

### 5：その他

第3種が全天候型になったので、今後は写真判定装置の設置について義務付けの方向で指導を進めるが、当面はレンタルも可とする等。

(桑原 義貴)

## 強化委員会

### 1. 会議報告

11月21日に名古屋高等学校会議室に於いて、第4回強化委員会を開催した。議題は第61回兵庫国体の反省、都道府県対抗男子、女子駅伝の選手選考、次年度国体強化指定選手の選考、国体強化指定選手合宿の実施計画、各種栄賞の推薦候補者の選出等をした。

平成19年2月4日(日)全国都道府県男女駅伝スタッフ反省会を実施し、次年度のスタッフと強化策を検討した。

### 2. 強化合宿・練習会関係

12月9日、10日県営岡崎競技場で投てき合宿。12月22日～25日中京大学で棒高跳合宿。12月24日～26日半田市競技場と内海海岸で短距離・障害・跳躍・競歩合宿。12月25日～28日瑞穂北競技場で都道府県駅伝・中長距離合宿。1月4日、5日瑞穂北競

技場で全国都道府県駅伝選手合宿。1月20日中京大学で短距離・障害・跳躍・競歩の強化練習会。1月27日、28日県営一宮競技場で投てき合宿。2月17日知多市競技場で短距離・障害・跳躍・競歩の強化練習会を実施した。

### 3. 指導者養成行事

平成19年1月28日(日)瑞穂北陸上競技場で、小学校クラブチーム指導者講習会を約30名の出席で実施した。今年度は実技講習に投てき種目を取り上げ、講師は明和高校の石井哲郎先生にお願いした。内容は「投の基本動作と段階的指導」とし、実技講習の後質疑応答と活発なやり取りがあり、有意義な会となった。その後、連絡協議会も実施した。

### 4. 陸上競技教室

県下4会場で陸上教室を実施した。県営一宮競技場では12月9日、1月13日、2月10日の3回。瑞穂北競技場では12月16日(写真)、1月6日(雨天で中止)、1月27日、2月12日の4回。半田陸上競技場では12月9日、1月13日、2月11日の3回。渥美総合グラウンドでは12月9日、1月6日、2月11日の3回。

(水野 久)



講師の100m日本記録保持者伊藤浩司先生(甲南大)の話に聞き入る受講者

## 年誌資料・広報委員会

17年度に発足した本委員会は、この2年間、「愛知陸協広報」の発行を中心に活動してきた。

17年度の前半は、東京、京都、三重等の陸協広報誌を参考に本誌の基本構想について協議を重ね、18/1/1付で創刊号を発行した。

18年度は、委員会の全体会議を5/12、9/13、12/20の3回開催すると共に、広報誌を4/1(8頁)、7/15(12頁、県選手権時配布)、11/23(10頁、名古屋ハーフマラソン時配布)、19/3/11(10頁、名古屋国際女子マラソン時配布予定)の4回発行した。

「広報誌」は、①編集内容及び執筆者等の決定、②理事会に案を報告(①と②が前後することあり)、③執筆者に原稿依頼(締切期日は凡そ1ヶ月後)、④原稿の確認・検討、⑤レイアウト、⑥印刷会社入稿、⑦校正(2~3回)、⑧印刷会社(印刷)、⑨納入、⑩愛知陸協関係者に配布、⑪日本陸連、報道関係、教育委員会等に謹呈等、概ね3ヶ月のプロセスを経て一連の作業が終了する。

2年間、未熟な広報誌を温かく見守り応援していただいた陸協関係者、多忙のなか玉稿を執筆して頂いた皆様そして夜遅くまで労苦を共にして頂いたスタッフの皆さんに深謝します。

最後に、原稿を再三にわたって入稿したにもかかわらず丁寧に対応して頂いた一誠社の皆様、特に担当の藤野さんと杉浦さんに心よりの感謝を申し上げます。(西垣 完彦)

## 関係団体報告

### 高体連陸上競技部

今年度は、東海高校総体・東海高校駅伝とも愛知県で開催されましたが、愛知陸協はじめ名古屋市、知多市、知多警察及び関係企業等々、多方面の方々のご協力ご支援のおかげで、無事終了することができましたことを厚く御礼申し上げます。

さて、19年度の競技会日程がほぼまとまりましたが、そのうち高体連関係だけをピックアップしてお知らせします。(紙面の都合で県大会以上のものだけ掲載)



## ○高校総体関係

- ・県総体 5月25日(金)・26日(土)・27日(日) 瑞穂  
(昨年度より1週遅い日程になりましたので、ご注意ください。)
- ・東海総体 6月15日(金)・16日(土)・17日(日) 静岡(エコパ)  
(昨年度の東海新人は草薙でしたが、総体はエコパですのでお間違いなく。)
- ・全国総体出場者練習会 7月15日(日) 瑞穂(本陸)
- ・全国総体 8月2日(木)～6日(月) 佐賀(佐賀市)

## ○新人戦関係

- ・県新人 9月29日(土)・30日(日) 瑞穂
- ・東海新人 10月27日(土)・28日(日) 岐阜(長良川)

## ○駅伝関係

- 県駅伝 11月4日(日) 知多市
- 東海駅伝 11月25日(日) 静岡
- 全国駅伝 12月23日(日) 京都市

※20年度の埼玉インターハイより、高校男子円盤投げの重量が、1.75kgに変わりますが、19年度の高体連関係の大会は、従来どおり1.5キログラムで行ないます。

※毎年の登録で、生徒氏名の漢字・読みがな及び生年月日の間違いが多く指摘されます。よくご確認のうえ、登録してください。  
(大島 修)

## 小学生友の会

## 1 第5回愛知県小学生クロスカントリーリレー競走大会兼第9回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会愛知県選考会

平成18年12月3日(日) 豊橋市陸上競技場 参加12チーム	
優勝 田原陸上クラブ A 30分33秒73 3年連続愛知県代表	田原陸上クラブ ..... 全国大会の成績 ..... 17年3月 9位 18年3月 8位 19年3月 6位以内を目標 .....
第2位 豊橋陸上クラブ A 31分11秒73	
第3位 田原陸上クラブ B 32分52秒30	
第4位 豊橋陸上クラブ B 33分24秒58	
第5位 へきなん陸上クラブ A 33分56秒08	
第6位 豊橋陸上クラブ D 34分05秒74	
第7位 田原陸上クラブ C 34分38秒61	
第8位 田原陸上クラブ D 34分49秒59	

全国大会は、万博記念公園特設コース(大阪)で平成19年3月25日(日)に行われます。

## 2 小学生クラブチーム指導者実技講習会 平成19年1月28日(日) 瑞穂北陸上競技場 強化委員会普及部

- (1) 実技研修 投の基本動作と段階的指導 講師 石井哲郎氏
- (2) 質疑応答・連絡協議

(大矢 新吾 村上 勲治)

心豊かな長寿社会の実現への貢献役  
マスタース陸上

2007年の新しい年を迎えました。愛知マスタース陸上競技連盟の今年の最大の課題は、2009年の全日本マスタース陸上競技選手権大会の準備だと考えています。現在、連盟内に設置した「準備会」で大会のイメージ案を作成し、それを基に連盟理事会で検討し、連盟としての素案づくりをしている段階です。

今年は、この素案を基に関係機関や関係者と相談、調整し、大会の基本的な大枠の案を作成しなければならない重要な1年と考えています。

この大会を開催するには多くの関係機関や関係者の方々のご支援、ご協力を必要としますが、中でも愛知陸協は最も重要な関係機関であり、愛知陸協のご支援、ご協力なくして大会は開催できないのであります。従いまして愛知陸協の組織として、また愛知陸協の会員として、あるいは陸上競技の愛好者として、それぞれの立場から皆様のご指導とご支援をお願いしたいと思います。

第2の課題は、財政基盤の強化だと考えます。何をやるにもその裏づけとなる資金が要ることから、財政基盤を強化する必要が

あります。そのための1つの方法は、会員の数を拡大させることだと考えます。2006年度の登録会員は245人、これは過去最高の会員数で、2005年から2年連続で過去最高を更新しています。しかしながら、全国的に見ますと会員の数では全国12位、人口10万人あたりの比率は全国45位であります。まだまだ拡大の余地はあると考えます。

会員確保の方策としては、登録者経験者約450人に再度の登録を要請することや、新規の会員を発掘獲得することなどが考えられます。いずれにしても簡単なことではないことから、地道に会員の拡大に努めたいと考えています。

マスターズ会員は、全て愛知陸協の会員となっていますので、マスターズ会員を拡大することは、愛知陸協の財政にも僅かながらでも寄与できると考えています。

大会の報告として、第19回全国スポレク祭が10月22日から24日まで鳥取県で開催されました。愛知県からは永田敏也監督以下20名の代表選手が参加し、個人種目では7人が9種目で1位を、リレーは4種目中2種目で1位を獲得しました。なかでも男子M55で中村勉が砲丸投と円盤投、女子W45で碓井由紀子が100mと200mの2種目で1位となりました。特に、碓井はスウェーデンリレー(男女混合)と女子4×100mリレーでもリレーメンバーとして1位となり、併せて4つの金メダルを獲得する大活躍でした。  
(佐野 昭二)

## 愛知陸協OB会

- 1) 昨年11月16日(木)、好天に恵まれ34名の参加者を得て、観光バスで秋の信州を訪れ、りんご狩り、早太郎温泉で入浴、昼食、そして養命酒駒ヶ根工場を見学し無事帰名しました。りんごが一番おいしくなる時期であり、甘みの濃いりんごに一同納得の一日でした。当日、シナノ体器、の方に大変お世話になったことを付記します。
- 2) 平成19年新年懇親会は東三河支部の担当で1月25日～26日、サンヒルズ三河湾にて開催し、51名の参加を得て盛大に行うことができました。参加者は16時に受付をすませ、ゆっくりと温泉につかり、記念写真、懇親会と移り、大いに飲み、一同、時の経つのも忘れて懇親を深めることができました。宴会後も各部屋で遅くまで賑やかに過ごしました。

(村瀬雄一郎)

## 理事会等会議報告

(11月～平成19年1月分)

## ○理事会12月15日(金) 県教育会館

## 1 協議事項

- (1) 平成18年度各種栄章候補者の推薦について
- (2) 平成19年度競技会等の日程について
- (3) 各支部から選出する理事の基準数について
- (4) 全国都道府県対抗女子・男子駅伝大会の選手選考について
- (5) 審判員昇格候補者の推薦について
- (6) 2007年名古屋国際女子マラソン大会について
- (7) 2007年犬山ハーフマラソン大会について
- (8) 2007年名岐駅伝大会について
- (9) 第17回西田・高橋記念国際室内棒高跳競技大会について
- (10) 冬季強化合宿について
- (11) その他

## 2 報告事項

- (1) 愛知県体育協会表彰者の推薦について
- (2) ジュニアオリンピック大会の結果報告
- (3) スーパーレディース駅伝大会の結果報告
- (4) 名古屋ハーフマラソン大会の結果報告
- (5) 東海高校駅伝競走大会の結果報告
- (6) 陸上競技教室の状況報告
- (7) 全国競技委員長会議の報告

- (8)全国強化委員長会議の報告
- (9)各専門委員会報告
- (10)その他
- 常務理事会 1月9日(火) 県教育会館

1 協議事項

- (1)臨時評議員会開催について
- (2)平成19年度競技会等の日程(追加・変更)について
- (3)公認審判員の昇格候補者の推薦について
- (4)平成18年度愛知陸上競技協会の承認について
- (5)名古屋国際女子マラソン大会の委員・業務・日程について
- (6)中日豊橋マラソン大会について
- (7)愛知陸上競技協会規約および細則の一部改訂について
- (8)その他

2 報告事項

- (1)日本陸連評議員会の報告
- (2)各専門委員会からの報告
- (3)その他

○理事会 1月31日(水) 県教育会館

協議事項

- 1 愛知陸上競技協会規約および細則の一部改正について
- 2 任期満了に伴う役員を選任について
  - ①日本陸上競技連盟への派遣役員選出
  - ②愛知陸上競技協会役員選出
- 3 愛知陸上競技協会の参与の選出について
- 4 その他

○平成18年度臨時評議員会 1月31日(水) 県教育会館

会議に入る前に定足数の報告があり、平成18年12月31日現在の加入団体数116団体(議決権数207)のうち、出席加入団体数24団体(議決権数67)および委任状出席加入団体数62団体(議決権数101)、合計86団体、168議決権数(81.5%)であり、本協会規約第23条の定めによる議決権数が3分2以上あり本時の評議員会が成立することが確認された。

協議事項

評議員会に先立って行われた理事会の下記議題(案)について協議の結果、満場一致で原案のとおり可決、承認された。

- 1 愛知陸上競技協会規約および細則の一部改正について
    - 〈規約〉の第5条(組織)、第6条(役員)第21条(経費)および〈細則〉の第2条(議決権数)、第6条(登録会員)の一部が改正された。
  - 2 任期満了に伴う役員を選任について
    - ①日本陸上競技連盟への派遣役員を選任
      - 評議員候補者5名
    - ②愛知陸上競技協会役員を選任
      - ア. 会長 イ. 副会長 ウ. 理事 エ. 監事(各支部1名)
      - オ. 会計
  - 3 愛知陸上競技協会の参与の承認について
  - 4 平成19年度競技日程について
- 上記1の新旧対照表および2の役員一覧表は、次号に掲載する。  
(稲垣 裕)

栄章

おめでとうございます。

愛知県教育表彰受賞

平成18年度愛知県教育表彰が受賞者の國分一郎氏(副会長兼理事長)に対し、昨年11月7日(火)に県庁講堂にて、愛知県教育委員会より授与されました。

國分 一郎氏 略歴

- 競技歴 箱根駅伝出場 (3年連続)
- 役員歴 日本陸連評議員(昭和60年~平成15年)
- 愛知陸協理事長(平成7年~現在)



- 愛知陸協副会長 (平成14年~現在)
- 日本陸連理事 (平成15年~現在)
- 東海陸協理事長 (平成17年~現在)
- 受賞歴 愛知県教育委員会表彰 (昭和52・53年)
- 愛知県体育協会表彰 (昭和52・53年・平成3・4年)
- 日本陸連平沼章 (昭和58年)
- 日本陸連秩父宮章 (昭和61年)
- 文部科学大臣表彰 (平成15年)

短 信

○第15回ドーハ・アジア大会の成績(本県勢)

男子	100mH	第3位	内藤 真人	13.60
女子	10000m	第3位	大南 博美	32.18.02
	円盤投	第4位	室伏 由佳	52.26
	ハンマー投	第4位	室伏 由佳	59.74
	七種競技	第4位	中田 有紀	5619点

優勝が確実視されていた、室伏広治選手は残念ながら負傷のため欠場。

なお、選手よりサイン入りの日本代表ウェアが記念として贈呈されました。

○日本陸上競技連盟主催の「地域活性化イベント『キッズアスリート・プロジェクト』」が、内藤真人、室伏由佳、中田有紀、畑瀬聡らドーハ・アジア大会に出場した選手を講師に、2月26日(月)、豊橋市立小沢小学校を会場にして開催された。

イベントの詳細は、次号に掲載予定。

加入団体は5名で登録可能に!!

日本陸上競技連盟の登録規程の改正により、愛知陸協でも平成19年度から、従前の10名以上から5名以上で団体登録ができるようになりました。

愛知陸協の発展のために、一つでも多くの団体(クラブ)が結成され登録されることを期待します。

詳しく知りたい方は、本協会のホームページにアクセスするかお問い合わせください。

編 集 後 記

第5号をお届けします。

○ 本号では、新しく二つの企画がスタートしました。一つは80年近い歴史を辿る「名岐駅伝いまむかし」です。このテーマでは資料収集の成否が鍵です。ご協力をお願いします。もう一つは、「ホープさん」で、トップバッターにふさわしい逸材の鈴木さんに登場していただくことができました。掲載をご承諾頂いた皆さんありがとうございました。

○ 2年間にわたって試行錯誤を繰り返しながら紙面作りをしてきました。本誌が、協会と競技者のパイプ役として、また、愛知の陸上界の活性化にどの程度寄与できたか少々心許ないですが、このご判断は読者の皆様にお任せするとして、充実した「広報誌」を作るには、編集委員会と読者との不断のキャッチボールが不可欠です。

感想やご意見をどしどしお寄せ下さい。

○ ホームページと本誌の役割分担をどうするか、誰にどのような方法で配布するか、競技会の結果をどの範囲にするか等々は、今後の課題です。

○ 最後に、本誌を温かく見守り、執筆等にご協力を頂いた皆様に心よりの謝意を表し、19・20年度のスタッフにバトンパスします。  
(西垣 完彦)

編 集 委 員

- 占部 輝之 大西 敏功 榊原 茂 田中 輝彦 外山みな子
- 中尾 洋一 西垣 完彦 野口 一昭 平川 貴之 山本 三郎